

平成27年度

事業レポート

片瀬地区社会福祉協議会

目 次

片瀬のあゆみ	1
片瀬地区の概要	2
事業計画	3～4
活動報告	5～25
【高齢者福祉部会】	5～8
1. 家族を介護する人のつどい	5
2. めざせ！元気シニア	6
3. 柿狩りと植物園鑑賞ツアー	7
4. 部会開催	8
【障がい福祉部会】	9～11
1. 施策検討委員会の傍聴	9
2. 講演会への参加	9
3. 研修会の実施	10
4. 部会開催	11
【青少年・子育て福祉部会】	12～15
1. かたせ・にこにこ広場に協力	12
2. 児童交流会	13
3. 地域のお茶の間『さいとうさんち』見学	14
4. 青少協視察研修に参加	15
5. 平成27年度 第1回地区集會に参加	15
6. 「何でもトーク」に参加	16
7. 部会開催	16
【生活支援部会】	17～18
1. 部会開催	17
2. 研修会の実施	17
3. 講演会への参加	18
【広報部会】	19～22
1. 広報紙 社協だより「しあわせ」発行	19
2. 「社協ニュース」発行	20
3. 片瀬地区ポータルサイトでの情報発信	20
4. 学習会	21
5. 視察研修会	21
6. 部会開催	22

【その他の事業】 23～26

- 1. 地区新年賀詞交歓会 23
- 2. 日赤社資増強運動 23
- 3. ねたきり高齢者への見舞品贈呈 23
- 4. 赤い羽根共同募金の推進 23
- 5. 年末助け合い募金運動の推進 23
- 6. 災害への支援 24
- 7. 地区敬老会 24
- 8. 敬老事業 25
- 9. 福祉バザー・掘り出し市 25
- 10. 片瀬地区ふれあいまつりへの出展～藤沢炒麺～ 26
- 11. 車椅子の貸し出し 26

【平成27年度片瀬地区社会福祉協議会の活動について】 27～31

- 1. 「今後のあり方」に基づく評価報告 27

片瀬のあゆみ

片瀬は、片瀬丘陵を背にし、西南面を境川をもって鵠沼と分かれ、丘陵の北端から前面に沿ってその南端までの間を細長く伸びた地形である。片瀬丘陵部を除いた全地域が砂質土の低平地である。

片瀬は、「固瀬」または、「潟瀬」とも書く。片瀬川は境川の片瀬地区を貫流する部分に名付けられたものである。

東西1.42km、南北4.29km、面積は3.02k㎡であり、昭和22年(1947年)4月1日藤沢市に合併した。当時、田畑は北部に多く、宅地は南部の腰越寄りに集中していた。

江の島は、片瀬の南海上に位置し、東は遠く三浦半島を望み、西ははるかに伊豆半島を眺めることができる、海拔60.4m、周囲約2,500m、面積約0.18k㎡の直角三角形に近い陸繁島である。

大正12年の関東大震災の際には、約1mも隆起したため、海中にあった蛎房が露出し、その殻が白く岩石面に付着している。

鎌倉時代には、固瀬駅が置かれた。鎌倉幕府が滅んだ後は、北条時代となり玉縄城の管轄におかれた。北条氏が滅んだ後は、天正18年(1590年)徳川家康の御料地となった。その後、成瀬、大久保、松平、井伊、細川氏と所轄を変え、最後は堀田鴻之丞が知行した。

江戸時代末期には、民戸は165あって、その多くは農業の間に漁釣を行い、それを藤沢宿にひさいで生活に資した。

片瀬と江の島とは、古くからいつも関係を共にしている。それは、地理的な理由と経済的な面からきている。ことに近世にいたり、江の島が景勝の地として知られ、江の島弁財天の信仰が高まって、参詣・遊覧者が多くなってのちは、片瀬村民の生活の大部分は、そうした人たちを相手にした収入によって支えられていたと言っても過言ではない。

その故をもってか、明治維新から昭和22年(1947年)藤沢市に合併するまで数度行政上の変化を辿ったが、常にその所轄・所属を共にした。

明治元年(1868年)11月まで莚山県に属し、同年12月神奈川県所轄、明治4年(1871年)11月区制実施により第16大区第5小区に入り、片瀬江の島、手広、川名、腰越、津村などの旧津村郷が同小区に属した。

その後、区制の廃止(明治11年)、組合役場制などの行政措置を経て、明治21年(1888年)4月、町村制の実施に伴い、翌年4月30日に片瀬、江の島両村は合併して川口村となった。次いで昭和8年(1933年)4月1日、町制をしいて片瀬町と改め、日華事変、太平洋戦争を経て、昭和22年4月1日に藤沢市に合併した。当時(2月1日現在)の人口10,555人、戸数2,315戸であった。

片瀬地区の概要

区 分	市 全 体	片 瀬 地 区
面 積	69.57km ²	3.02km ²
人 口	426,450人	20,539人
世 帯 数	181,483世帯	8,632世帯
人 口 密 度	6,113/平方キロ	6,411/平方キロ
高 齢 者 数	99,994人	5,707人
高 齢 化 率	23.45%	27.79%
在宅ねたきり高齢者	129人	14人
ひとり暮らし高齢者	12,922人	437人

2016年4月1日現在

【事業方針】

少子高齢、核家族が進む地域社会の中で、高齢・障がい等により生活しづらい状況を抱えている方々、子育てに不安を感じられている方々などが安心して生活できるよう、身近な地域でふれあい、支えあう環境づくりに取り組み、温かみのある地域をめざします。

1. 高齢者のふれあい、ネットワークづくりの推進

高齢者が自分らしく元気に生活できるよう、社会的なつながりを増やし、地域の人々とふれあう機会の創出に取り組みます。

- 地区敬老会等の開催
- 散策事業等の実施
- 介護予防講習会等の実施

2. 高齢社会においても安心して暮らせる地域づくりの検討

日常生活の不便を地域でどのように支えあうのか、片瀬地区での生活支援の現状を踏まえ、他地区の社協の取り組みを学び、今後のあり方の検討を進めます。

- 身近な生活支援活動に関わる課題の情報共有・検討

3. 次世代を担う子ども達とのつながり

片瀬小学校との連携や、ボランティアセンターを拠点とした行事の実施を通じて、次世代を担う子ども達とのつながりを深める取り組みを進めます。

また、貧困、虐待など、社会的擁護の必要となる子ども達への理解を深める取り組みを検討します。

- 児童との交流会の実施
- ボランティアセンター「かたせ・にこにこ広場」への支援
- 社会的擁護の必要な子ども達への理解を深める研修会、視察会の開催等

4. 障がい者福祉の推進

身体、知的、精神、発達等の障がいがある人も、地域の中で生き生きと暮らせるよう、障がいに対する理解を深める取り組みを進めます。

- 障がいに対する理解を深める研修会(講座)、視察会の開催

5. 地域福祉に関する普及啓発

片瀬地区社協の活動や地域福祉に関する情報について、広報紙やホームページを利用し、地域住民等に向けて広く発信していきます。

- 広報紙「しあわせ」の発行
- ポータルサイトへの情報発信
- 各福祉委員の出身母体への活動報告作成

【事業内容】

高齢者福祉部会・・・主に高齢者福祉に関する課題の把握・検討、事業の企画・実行	
年3～5回	介護者のつどい
年3～5回	めざせ元気シニア(介護予防講習会)
年2～3回	ふれあいお楽しみ会(ふれあい事業)
通年	居場所ひだまりの支援
障がい福祉部会・・・障がい福祉に関する課題の把握・検討、事業の企画・実行	
年2～3回	障がい福祉ミニ講座
	施設見学
	障がい者との交流
青少年・子育て福祉部会・・・青少年・子育て福祉に関する課題の把握・検討、事業の企画・実行	
2月頃	片小児童交流会
通年	にこにこ広場活動への支援
生活支援部会・・・生活支援の仕組みの検討	
	身近な生活支援活動に関わる課題の情報共有・検討
広報部会・・・情報の収集・発信・啓発	
年2回	「しあわせ」の発行
随時	社協ニュースの発行
随時	インターネットを使った社協の情報発信
社協全体で取り組むもの	
年1回	研修(理事研修・評議員研修)
年1回	講演会(福祉講演会)
通年	ボランティアセンター事業への協力
1月	地区新年賀詞交歓会
年1回	日赤社員増強運動
8月頃	ねたきり高齢者への見舞品贈呈
年1回	赤い羽根共同募金
年1回	年末助け合い運動
年1回	災害への支援
9月	敬老会
10月	福祉バザー
10月	ふれあいまつりへの参加(掘り出し市・炒麺販売)

[活動報告]

【高齢者福祉部会】

1. 家族を介護する人のつどい

内 容：

家族介護者が集まって日常の悩みの意見交換、専門職の支援を受ける機会として片瀬地区社協は場を提供し、相談員として片瀬いきいきサポートセンター、(社福)上村鵠生会にご協力いただき、今年度は3回実施してきました。

参加者のほどんどの方々が帰られる時には、少しホッとした様子で顔が和らいでいました。相談員の方のアドバイス、介護者同士との共感で笑い声が聞こえました。受付をしていた私達もこの会を行って良かったと思っています。

今年度は、「これから介護を始めるのに不安を感じている」「病院から戻ってきた時はどのように受け入れたらよいか」との相談が多かったです。

また、参加者からの感想として、このような場に出てこれられない、誰の助けも得られずに困っている方への対応の必要性やグチを吐き出さないとパンクするといった事などが挙げられています。

今後も福祉委員の方々の協力を呼びかけていきたいと考えております。

実施日：

第1回 平成27年8月7日(金) 参加者3名 従事者5名

第2回 平成27年11月7日(土) 参加者3名 従事者5名

第3回 平成28年2月23日(火) 参加者3名 従事者4名

開催時間：いずれも10時～11時30分(出入り自由・当日参加も可)

会 場：片瀬市民センター第2談話室

2. めざせ！元気シニア

内 容：

介護予防に係る取り組みとして、片瀬市民センターホールにて今年度は3回実施いたしました。

年齢に関係なく、日頃の過ごし方が大切だと考えておりますが、なかなか見直すことができない方も多いことと思います。

当部会といたしましては、「元気な方はさらに元気に！」をテーマに健康寿命を延ばす取り組みとして、今年度次のとおり活動いたしました。

実 施 日：

第1回 平成27年7月27日（月） （参加者 17名 従事者 12名）
音読と健康体操

第2回 平成27年11月18日（水） （参加者 17名 従事者 12名）
栄養バランスと体操

第3回 平成28年3月3日（木） （参加者 8名 従事者 7名）
口腔のお話と体操



3. 柿狩りと植物園鑑賞ツアー

内 容：

人気の柿狩り。前日は大雨でとても心配しましたが、当日は前日の天気が嘘のようで、すっきり晴れ渡った秋空でした。

柿園が滑りやすくなっていないか心配でしたが、関根果樹園さんのご配慮で、柿の木の根本に滑り止めの藁が敷きつめられており、足を濡らすこともなく大きな柿をもぐことができ、皆さん大喜びでした。

参加者の中には、柿葉を抽きたいとのことで持ち帰る方もいらっしゃいました。

わいわい市では、ほとんどの方が新鮮な野菜を買っていました。

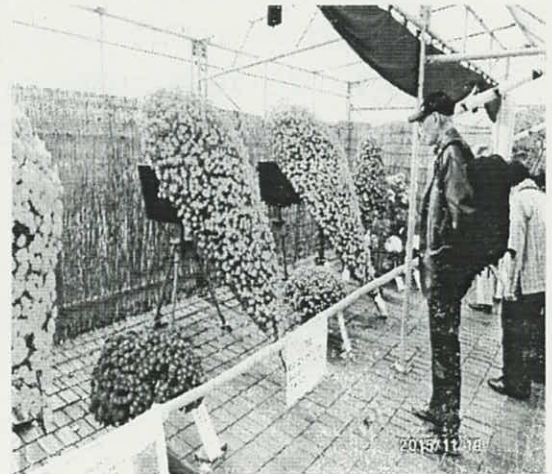
昼食は、濱町さんにて、お刺身の定食をいただきました。

フラワーセンターに到着する頃に少し雲が出てきまして、肌寒くなってしまいました。参加者の皆さんも一通り鑑賞されたとのことなので、予定時刻より早く帰路につきました。

日 時：平成27年11月19日（木）9時～15時30分

訪問場所：① 柿狩り	関根果樹園
② わいわい市藤沢店	買い物
③ 濱町 湘南台店	昼食
④ 県立フラワーセンター 大船植物園	散策

出席者数：一般参加者30名・従事者9名 広報部会員（取材のため）1名
看護師1名 事務局1名 合計43名



4. 部会開催

内 容：片瀬市民センターにて、今年度2回部会を開催し、活動内容や今後の事業等について検討いたしました。

1回目：平成27年6月22日（月）10時～12時 出席者数：25名

2回目：平成28年2月22日（月）10時～12時 出席者数：20名

以 上

【障がい福祉部会】

1. 施策検討委員会の傍聴

「平成27年度

障がい者計画・障がい福祉計画検討委員会（第1回～第4回）」への傍聴

第1回：平成27年5月25日（月）	片瀬地区社協参加者8名
第2回：平成27年8月25日（火）	〃 8名
第3回：平成27年11月17日（火）	〃 8名
第4回：平成28年1月25日（月）	〃 6名

これまで市が取り組んできた障がい福祉に関する事業について、評価をする検討委員会でした。配布資料では、市が取り組んだ事業が一覧になっており、市がどんなことを実施したのか、把握することができました。

これを受けて、我々の部会で何をすべきなのか？引き続き考えていきたいと思えます。

2. 講演会への参加

(1) ～成年後見を学ぶ～県民講座

「障がいのある人の理解（精神障がい）」

「高齢者、認知症の理解」

「障がいのある人の理解（知的障がい）」

主 催：（社福）神奈川県社会福祉協議会

日 時：平成27年8月27日（木） 10時～16時30分

会 場：長後公民館

参加者：2名

(2) 第47回藤沢市社会福祉大会 講演

「支え合いの地域づくり」～地域の絆で問題解決～

講師：豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長
勝部 麗子 氏

主催：藤沢市・藤沢市社会福祉協議会

日時：平成27年11月13日（金）14時30分～16時

会場：藤沢市民会館 小ホール

参加者：8名

3. 研修会の実施

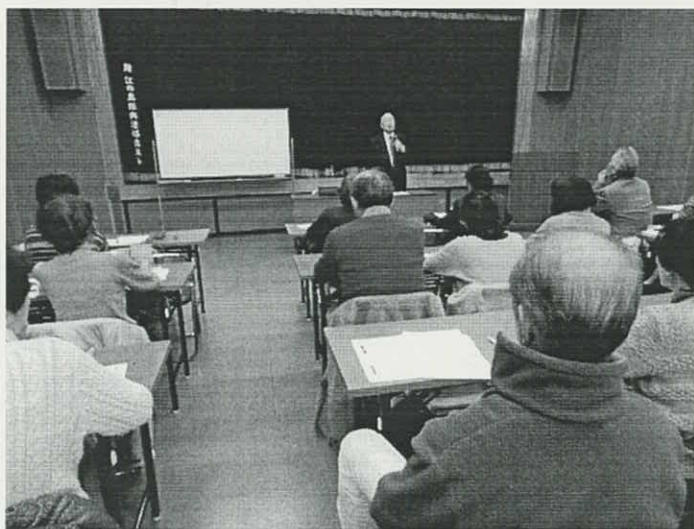
「障がい福祉の推進～障がい児の早期発見と早期療育～」

講師：鎌倉市社会福祉協議会 副会長
西念寺 住職
富田 英雄 氏

日時：平成28年1月17日（日） 14時～15時30分

会場：片瀬市民センター 2階ホール

参加者：56名



4. 部会開催

今年度の事業についてのまとめ及び来年度事業方針の確認等を実施いたしました。

日 時：2月29日（月）10時～12時

会 場：片瀬市民センター第2談話室 参加者：9名

以 上

【青少年・子育て福祉部会】

1. かたせ・にこにこ広場に協力

内 容：朝10時になると、乳幼児を連れてお母さん達が集まってきます。お母さん達は、子供達を遊ばせながら、おしゃべりに花を咲かせます。お昼頃になると、外遊びが済んだ子ども達も集まってきます。そしておもちゃを片付けて、机と椅子を出し、手洗いもちゃんとできます。みんなで“いただきます”で楽しいランチタイムが始まります。

2歳を過ぎると遊びながら、おもちゃの取りっこや可愛いけんかもありますが、お母さん同士がみんな仲良しなので、問題にはなりません。

臨床心理士の原さんは、幼児を遊ばせながら、お母さんの相談相手にもなっています。

片瀬は山から海まで広いので、年5回“出張にこにこ広場”を開催しており、ボランティアセンターでの活動も含め、当部会ではこの事業に協力して参りました。

日 程：にこにこ広場開催日 毎月第2～5木曜日 10時～15時
※当部会では、原則毎月第2木曜日を担当。

会 場：片瀬地区ボランティアセンター「ひだまり片瀬」

開催日及び協力人数：

平成27年

4月9日	1人
5月14日	1人
6月11日	2人
7月9日	2人
9月10日	5人
10月8日	4人
11月12日	4人
12月10日	5人(クリスマス会)
12月17日	3人

平成28年

1月14日	2人
2月18日	1人
3月10日	1人
3月17日	1人

出張にこここ広場

日 程：平成27年

6月 4日	西浜公園	7人
7月 2日	片瀬中学校図書室	7人
9月19日	片瀬中学校図書室	5人
11月 5日	浪合市民の家	5人
平成28年		
3月 3日	片瀬しおさいセンター ふれあいルーム	4人



2. 児童交流会

内 容：この事業は、古くから片瀬にお住まいの方が昔の片瀬のこと等を片瀬小学校の3年生にお伝えするという事業で、毎年行われております。今年度は、平成28年2月10日（水）に実施予定でしたが、学級閉鎖が発生したため、児童交流会は中止となりました。当日楽しみにして、準備をしていただいた協力者の方々には、お詫びの手紙をお出ししました。

3. 地域のお茶の間『さいとうさんち』見学

内 容：元気な高齢者の居場所が欲しいと思って探していたところ、ひとり暮らしの男性から「我が家を使ってください」という申し出があり、3年前から毎週水曜日に開催しています。

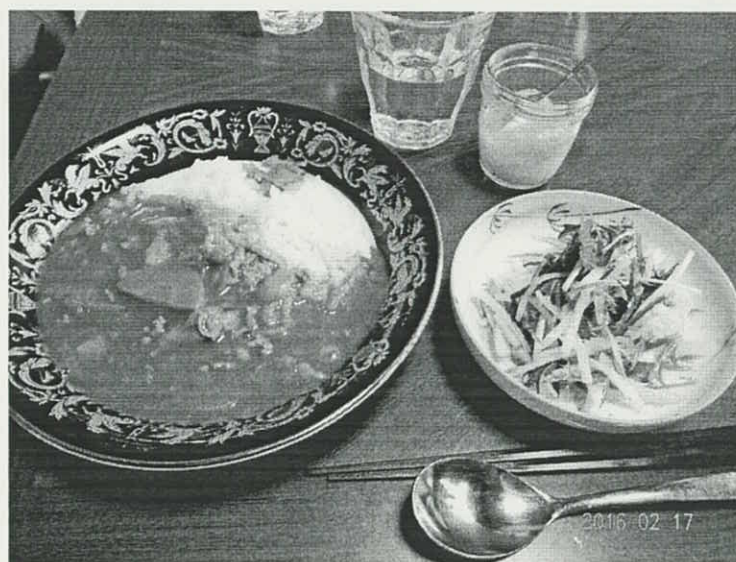
参加費として300円を支払うと、ランチタイムにはカレーが食べられます。お茶、紅茶、コーヒーはセルフサービスで何杯でもいただけます。

茅ヶ崎駅に近いということもあり、乳幼児を連れたお母さんから高齢者の方まで、市外からも広範囲の方々が集まってくるそうです。私たちが訪問した日も、ちょうどお昼時ということもあり、元気な高齢者の方々がおいしそうにカレーを食べていました。

私たちがカレーをいただいていたら、2歳くらいの女の子と生後2ヶ月の赤ちゃんをつれたお母さんがいらっしゃって、一緒にいただきました。引っ越してきたばかりで、「まだ近所にお友達がいないので、ここに来るのが楽しみです」と言っていました。

食後、おいしいコーヒーを飲みながら、“さいとうさんち”を立ち上げた早川さんから色々お話を伺いました。

また月1回茅ヶ崎教会にて、子ども食堂「いただきます」を開いていることを聞き、今度はそちらも見学したいと思いました。



4. 青少協視察研修に参加

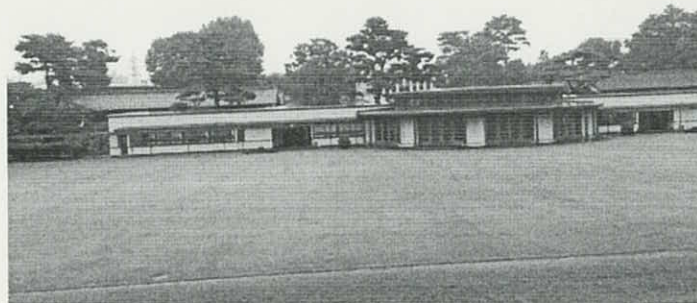
内 容：知恵の詰め込みではなく、自分の頭で考えることを大切にし、自分たちで創り出すことを通して、「一人ひとりに与えられた力を育みたい」という建学のもとに1921年に創立された、幼稚園から大学までの一貫教育校です。

当日は、緑鮮やかな広大なキャンパスの樹木を、雨の中、学生たちが手慣れた様子で手入れを行っていました。生活のすべてが勉強とのことで、中等・高等科は男女別の寮生活です。私達も寮で手作りの昼食を美味しくいただきました。畑仕事からメニュー作り、調理と全てをこなす彼らから、生きる力を持った、たくましさを感じました。

日 程：平成27年9月25日（金）

研 修 先：学校法人 自由学園（東京都東久留米市）

参加者数：（当部会から）5人



5. 平成27年度第1回地区集会に参加

（片瀬・江の島まちづくり協議会主催）

内 容：「片瀬・江の島っ子の未来を語り合おう」をテーマに、片瀬の若い人から高齢者まで、みんなで子ども達の未来について、グループに分かれて話し合いました。

鈴木市長をはじめ、市職員にもグループに入ってもらい、活発な意見交換ができました。子ども達が「片瀬で育ってよかった」と思えるように、私達大人が楽しくいきいきと生活することが大切な事だと思いました。

6. 「何でもトーク」に参加（青少協主催）

内 容：「思春期をうまく乗り越えるために」をテーマに、スクールスーパーバイザーのヴィヒャルト・千佳こ氏を講師に迎えて講演会が催され、当部会においても参加いたしました。

その後、グループ討議になり、先生方も各グループをまわっていただき、有意義な話し合いができました。

7. 部会開催

内 容：片瀬市民センターにて、今年度7回部会を開催し、活動内容等について検討いたしました。

第1回：	平成27年5月15日（金）	13人
第2回：	7月6日（月）	13人
第3回：	9月8日（火）	11人
第4回：	11月10日（火）	10人
第5回：	12月24日（木）	9人
第6回：	平成28年1月19日（火）	8人（他児童交流会協力者13人）
第7回：	3月14日（月）	11人

以 上

【生活支援部会】

地域課題へ対応しやすいような組織編成の改正が今年度に行われ、「身近な生活支援活動に関わる課題の情報共有・検討」を事業方針とし、活動いたしました。

1. 部会開催

5月15日（金）第1回部会	顔合わせ・全体参加行事の予定等について
6月9日（火）第2回部会	活動への意見交換
7月21日（火）第3回部会	介護保険で支援範囲外の支援を担う「ボランティアしおさい」を知るために同団体の代表でもある田村副部長から講義を受けた。
8月25日（火）第4回部会	第3回部会での講義についてのアンケート結果について話し合いを行った。今後変革する介護保険制度についての研修について検討を行った。
9月29日（火）第5回部会	9/30 研修会当日の進行等について確認。
11月17日（火）第6回部会	9/30 研修会アンケートまとめ等
12月8日（火）第7回部会	12/3 研修会での参加者感想について共有
1月26日（火）第8回部会	各自治町内会へ12/3 研修会の内容を啓発していくことについて検討。
2月23日（火）第9回部会	今年度の振り返り・自治町内会への研修会について検討。
3月29日（火）第10回部会	来年度事業について・自治町内会への研修会についての検討。

2. 研修会の実施

(1) 「今地域に求められること」

講師：認定NPO法人 ぐるーぷ藤 理事長 鷲尾 公子 氏
日時：平成27年9月30日（木） 10時～16時30分
会場：片瀬市民センター2階ホール
参加者：36名

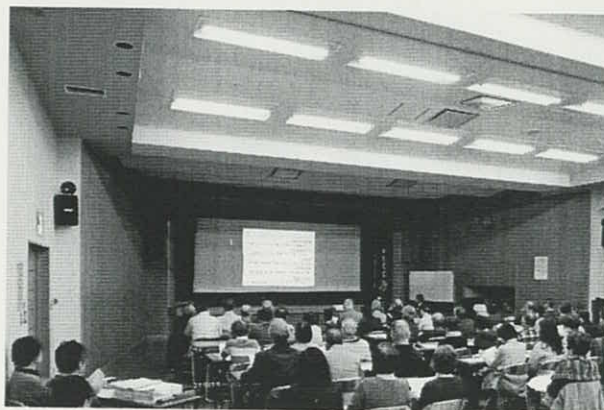
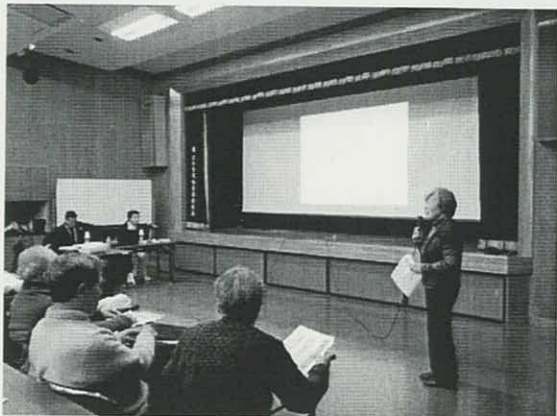
(2) 「現在の介護保険制度と片瀬地区の現状について」

講 師：片瀬いきいきサポートセンター 長沼氏
村岡ホーム 板垣氏

日 時：平成27年12月3日（木）10時～12時

会 場：片瀬市民センター2階ホール

参加者：44名



3. 講演会への参加

(1) 第47回藤沢市社会福祉大会 講演

「支え合いの地域づくり」～地域の絆で問題解決～

講 師：豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長
勝部 麗子 氏

主 催：藤沢市・藤沢市社会福祉協議会

日 時：平成27年11月13日（金）14時30分～16時

会 場：藤沢市民会館 小ホール

以 上

【広報部会】

1. 広報紙 社協だより「しあわせ」発行

(1) 第46号 平成27年6月25日発行

掲載記事

- ・「ふれあい支え合う地域づくり」
片瀬地区社協総会報告・社協理事一覧
- ・連載 介護予防をはじめよう (三) 閉じこもりについて
- ・事業報告 めざせ元気シニア、福祉講演会、児童交流会、
柿狩りと紅葉を眺める会 他
- ・連載 しあわせとは「私にとっての幸せ」
片瀬在住県立高校1年 松田亜久里さん
- ・連載 私の健康法「貯めこまないこと」
片瀬山四丁目在住 西田久夫さん
- ・新任センター長紹介 他

(2) 第47号 平成27年11月25日発行

掲載記事

- ・「どう変わるの？介護保険制度」
片瀬いきいきサポートセンター 長沼センター長
- ・生活支援部会主催講演会
「今後の福祉施策に関する研修会～今地域に求められること」
- ・連載 しあわせとは「子どもたちのちから」
片瀬海岸二丁目在住 奥村桂さん
- ・連載 私の健康法「日頃、自分の健康を考える」
片瀬五丁目在住 山口新蔵さん
- ・敬老会報告
- ・片瀬ふれあいまつり報告
- ・各部会事業報告
- ・表彰報告 他



4. 学習会（ポータルサイト研修）

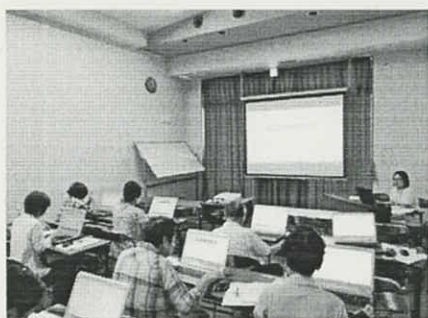
平成27年7月22日実施 片瀬市民センター第3談話室

講師 片瀬市民センター職員 高木

参加者 10名（広報部会および他団体より）

平成27年度より社協広報部会ではインターネットによる広報活動を実施することになりました。

そのため、すでに藤沢市の地区サイトとして運営されている「片瀬ポータルサイト」の使い方、記事投稿の方法を、実際にパソコンを操作しながら学習しました。



（左写真）片瀬ポータルサイト学習会
社協からのお知らせを随時掲載しています。

5. 視察研修会

・「地域の縁側」めぐり 平成28年2月26日実施

・参加者 13名（広報部会および社協理事）

・片瀬地区の「ひだまり片瀬」は平成26年、他地区に先がけて「地域の縁側」として市の指定を受け、多くの皆さんに利用されています。現在市内には、全部で14箇所の「地域の縁側」があります。広報部会では、その中から下記3か所の「地域の縁側」を見学し、それぞれの特色を学びました。今後、片瀬地区内の新たな居場所作りにむけての参考になるよう、取材記事を次回「しあわせ48号」に掲載予定です。

〈見学場所〉ヨロシク♪まるだい、交流サロン「ゆい」、
交流スペースほっと舎

（右写真）善行にある「ゆい」
はご自宅の一部を「地域の縁側」
として開放し、主に高齢者の方
の憩いの場になっています。



6. 部会開催

会場：片瀬市民センター

部会開催	H27. 5/15 5/20 5/22 5/29 6/2 6/10 7/31 8/11 8/27 9/24 10/8 10/19 10/26 10/30 11/4 11/10 H28. 1/28 2/18 3/15 全19回
印刷仕分作業	H27. 6/18 8/1 11/1 H28. 3/2 全4回

以上

【その他の事業】

1. 地区新年賀詞交歓会

片瀬地区自治町内会連絡協議会との共催事業として実施しました。今年は約140人の方が参加されました。

2. 日赤社資増強運動

日本赤十字社は、国内外の救援活動を始め、地域のニーズに応じた福祉ボランティア活動、その他幅広く事業を展開しています。事業資金は、赤十字の事業の賛同者から、自治町内会を通じて寄せられた「社資」により支えられています。募集期間：平成27年5月～6月 地区実績額：1,368,600円

3. ねたきり高齢者への見舞品贈呈

ねたきりの高齢者の方々に少しでも快適な生活を送っていただけるよう、民生委員を通じて17人の方に保湿ティッシュをお贈りいたしました。

4. 赤い羽根共同募金の推進

地域福祉の増進を図るため、県民の助け合いの心を振興し、その結晶である寄付金は、地域の中で様々な活動を展開する民間の福祉団体を支える資金として、有効に活用され、福祉の向上に寄与されます。募金は自治町内会を通じて、ご協力いただきました。

募集期間：平成27年10月 地区実績額：1,605,930円

5. 年末助け合い募金運動の推進

地域の寝たきり、認知症、一人暮らしの高齢者、障がい者など、介護を必要とする人々や、ひとり親、子育て中の世帯、在住外国人など生活基盤が弱く支援を求める人々など 誰もが住み慣れた地域で安心して生活をしていくためには、行政の施策と相まって、地域の問題を、お互いに協力し合い解決していく取り組みや、年間を通じた計画的な援助が必要なため、年末助け合い運動が展開されています。募金は自治会・町内会を通じて協力をいただきました。

募集期間 平成27年12月～ 地区実績額：631,857円

6. 災害への支援（福島県大熊町へ）

東日本大震災による原発事故で被災した大熊町は、事故から5年以上経過した現在においても、国の具体的な復興へ取り組みができていない状況です。町は、平成24年12月において「5年間は帰町しない」との判断を行っています。その大熊町に、今後の復興に向けた活動の支援金として片瀬地区社協から寄付いたしました。

支援金 50,000円

7. 地区敬老会

- 日 程： 平成27年9月3日（木）
会 場： 藤沢市民会館第1展示集会ホール
参加者： 175名（対象者173名 付添い人 2名）
鈴木市長、来賓18名、福祉委員36名、民生委員28名、
交対協3名、包括支援センター1名、事務局10名
内 容： 高齢者の長寿をお祝いするため開催しました。
83歳以上の方173名と付添い2名、合計175名をお招きして、ご長寿のお祝いの式典はつつがなく進みました。鈴木市長、地区自治会連合会長等のご祝辞を頂き、参加者皆さまから笑みがこぼれていました。祝い御膳の後はお楽しみ演芸会と続き、楽しいひと時をお過ごしの様でした。



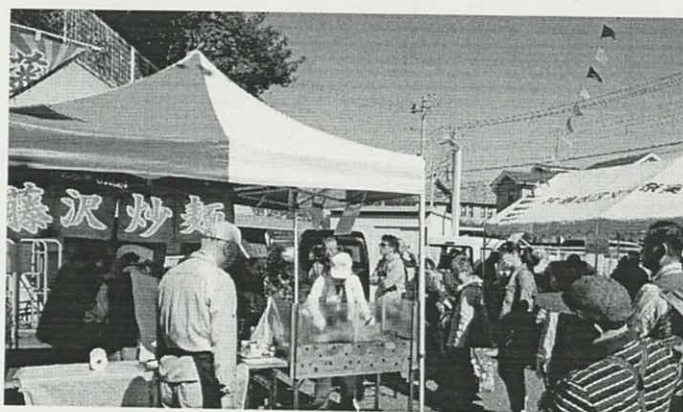
10. 片瀬地区ふれあいまつりへの出店～藤沢炒麺～

日 程： 平成27年10月24日（土）～25日（日）

会 場： しおさいセンター 駐車場

従事者 延べ53名（準備日も含む）

内 容 藤沢市内で収穫された小麦粉を使った地粉の麺に、同じく地元の野菜、キャベツ、人参、玉葱、ジャガイモ、もやしと肉を使った具だくさんの「藤沢炒麺」の模擬店も、今年で5年目になりました。「片瀬地区ふれあいまつり」にもすっかり定着し、常連さんも多くなりました。味の方も好評で、25日は270食、26日は180食をお昼前に完売しました。売上金は135,000円でした。ご協力ありがとうございました。

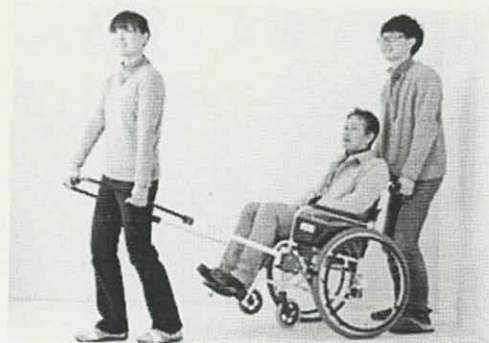


11. 車椅子の貸し出し

通院・外出・一時退院・墓参などの利用に社協の車椅子を貸し出しています。今年度の利用件数は52件でした。

また、段差を乗り越える際などの操作が少しでもスムーズになるよう、すでにある車いすに簡単に着脱できるけん引装置「JINRIKI」もごさいます。

車いすは現在9台保有しております。「JINRIKI」を含め、お借りになりたい方は片瀬市民センター福祉窓口までお越しください。



平成27年度片瀬地区社会福祉協議会の活動について

～「今後のあり方」に基づく評価報告～

わたしたちが暮らす片瀬地区も、少子高齢化や核家族化が進み、高齢、障がいなどにより生活しづらい状況を抱えている方々や子育てに不安を感じられている方々などが多くなっていると感じます。特に高齢社会は、団塊世代の方々が75歳を迎える2025年ごろからピークになると予測され、「地域でその人らしく暮らし続ける」、いわゆる地域福祉の推進を活動の目的にしている、わたしたち片瀬地区社会福祉協議会（以下、「片瀬地区社協」と記します。）の役割は、ますます大変重要となっているものと認識しています。

こうした中で、これからの地域福祉の更なる充実に向けて、わたしたち片瀬地区社協のあり方について、平成26年度にあり方検討会を設置して「今後のあり方」案をまとめ、この案を基に評議員会等での意見交換を踏まえて、臨時総会を開催し今後の方向性を確認するとともに新たな組織づくりに必要な会則も整えてきました。

「今後のあり方」は、片瀬地区社協のこれまでの活動の歴史や経過を大切にしながらも、今後の高齢化、障がい、子育てなどの具体的な課題へ積極的に対応するための組織と有効な予算の使い方などの財政に焦点を当てて検討し、片瀬地区社協の方向性やあるべき姿について言及しているものです。

本書は、このあり方に基づき、片瀬地区社協が平成27年度においてどのように取り組みができたのか評価し報告するものです。

<今後のあり方1. 今後の活動の方向性について>

「元気のない人にもっと光を！元気な人はさらに元気に！」

つながりのない人との接点を探求するために

- ① 元気な人がもっと元気になれるよう、おでかけ事業、介護予防など、従来からの企画については、参加者の感想や意見、どういう人が参加しているか、費用負担は適切かななどを絶えず精査して推進します。

→平成27年度活動

- 「元気な人はさらに元気に」という点については、高齢者福祉部会が、「めざせ元気シニア」等の介護予防事業や柿狩り散策事業等を実施しました。

[めざせ元気シニア]

実施状況：年3回実施

参加者の状況：片瀬地区在住の65歳以上の方

参加者の感想・意見：
・とても充実した時間でした。
・普通はできない体操を紹介してもらい、よかった。
・参加者が少なく驚いた。もったいないと思う。

費用負担の適否：軽食代の一部として一人200円を徴収。体を動かすということもあり、お茶は社協で負担しました。

[柿狩り散策事業]

実施状況：年1回実施

参加者の状況：70歳以上の方

参加者の感想・意見：大きな柿をもぎ取ることができ、皆さん喜んでいました。

費用負担の適否：食事代、おみやげ代等の本人のための費用については、一部として一人2,000円を参加者から徴収しました。

- 「元気がない人にもっと光を」という部分については、高齢者福祉部会が、介護者の抱える不安感や悩みを解消できる場を企画し、「家族介護者のつどい」を実施いたしました。

[家族介護者のつどい]

実施状況：年3回実施

参加者の状況：年齢問わず、毎回3名程度参加。

参加者の感想・意見：
・グチをこぼさないとパンクします
・このような場に出てこられず、誰の助けも得られず困っている方に対して何か対応が必要なのでは？

費用負担の適否：費用負担はなし。

- ② 周囲とつながりのない人や課題を抱えている人とどのようにつながりをつくるのか、個別的な悩みや課題の把握と関係機関との連携（つなぎ）に取り組みます。

→平成27年度活動

- 「つながりのない人との接点を探求する」という点については、生活支援部会が、「身近な生活支援活動にかかわる課題の情報共有・検討」に重点をおき、現状の把握はもとより、介護保険制度等の変革が見込まれる福祉施策についての研修会等を実施いたしました。

<あり方2. 地域課題へ対応ができる組織について>

1) 部会のあり方

課題分野別に部会を編成することにより、これまで実施されてきた事業の担当部会を明確にします。新たな部会編成のもと、地域福祉課題の把握・検討、事業の企画（事業の見直しも含む）・実施等において、より具体的かつ効果的に取り組みます。

→平成27年度部会構成と事業内容

① 高齢者福祉部会

・高齢者対象企画

(家族を介護している人のつどい、めざせ元気シニア、ふれあいお楽しみ会、居場所ひだまりの支援)

② 障がい福祉部会

・障がい福祉ミニ講座、施設見学、障がい者との交流

③ 青少年・子育て福祉部会

- ・片小児童交流会 等
- ・にこにこ広場活動への支援

④ 生活支援部会

- ・身近な生活支援活動に関わる課題の情報共有・検討

⑤ 広報部会

- ・「しあわせ」発行
- ・「社協ニュース」の発行
- ・インターネットを使った社協の情報発信

⑥ その他

その他の事業（日赤社資の募集、赤い羽根募金運動、年末助け合い募金運動、ねたきり高齢者見舞い品等）やふれあいまつり（福祉バザー・チャーマン販売）、敬老会については、部会に位置づけるのではなく、役員を企画メンバーとし、社協全体で取り組みました。

2) 理事・福祉委員のあり方

① 理事

理事会は、定例的に開催し、情報交換及び部会で企画した事業等の検討の場となっています。さらに、身近な地域課題への取り組みのためには、地域住民の直面する課題を絶えず検討する場として位置づけ、地域活動の基礎となる自治会や自治町内会連絡協議会との関係をより深めていくことが求められています。

具体的には、部の編成と併せて地域課題を検討する場となるよう理事会運営を見直し、理事会は自治会・町内会組織の代表者を加えた構成とします。

→平成 27 年度の取り組み

今年度から、課題別に部会を構成し、各部会長及び副部会長等で理事会を組織し、理事会が地区全体の課題を認識することができるよう、理事会運営を見直しました。また、副会長として、自治町内会連絡協議会の会長に理事会へ加わっていただき、自治町内会との連携を強化することができました。

② 福祉委員

片瀬地区社協の方向性を考え、地域福祉の課題や活動（所属しない部会活動）の共有を図ることができる仕組みづくりに取り組むため、従来の評議員を次のとおり見直します。

ア 位置づけ

- ・「福祉委員」への名称の変更
- ・会議の開催

総会と福祉委員会（年 1～2 回開催）において、片瀬地区社協の方向性、各部会活動の情報の共有化を図ります。また、福祉委員会及び部会での議論内容も理事会へ報告し、検討事項とします。

→平成 27 年度の取り組み

総会以降、生活支援部会や障がい福祉部会で実施した研修会について、福祉委員全員及び自治町内会長を対象としたものとし、所属部会を越えて課題の共有等を図ることができるようにしました。

イ 役割

- ・出身母体とのパイプ役

福祉委員には、片瀬地区社協の活動への理解を広め、協力を得るために、福祉委員各々の出身母体（各自治町内会、老人会等）との太いパイプ役が求められます。

→平成 27 年度の取り組み

出身母体への報告がしやすくなるよう、今年度から広報部会が、社協ニュースを発行することとしました。このことにより、出身母体にも社協の取り組みについてより理解してもらえるようになるとともに、福祉委員にパイプ役としての役割を再認識していただくことができました。

- ・地域の見守り役

日常生活や近所づきあいの中で把握した地域福祉課題を、片瀬地区社協の活動に反映させることが求められます。

また、生活に困難な状況を把握したときの民生委員児童委員、各関係機関へのつなぎの役割が期待されます。

→平成 27 年度の取り組み

生活支援部会が、様々な地域課題について検討を始めました。今後は、福祉委員が把握している課題等の集約・共有化に努めることとします。

<あり方 3. 片瀬地区社協の財政について>

現在、片瀬地区社協の活動の財源となっている全世帯から拠出を得ている会費や、住民から寄付を受けた品物を販売する福祉バザーなどで捻出した貴重なお金や、市社協や愛の輪基金から交付される補助金を、片瀬地区の地域福祉の充実に一層役立たせることが大切です。

各事業の個々の予算、参加費（参加者の自己負担）並びに基金のあり方について検討を進めていきます。

1) 個々の事業における予算の考え方について

- ・対象者（参加者）のバランスを考慮
- ・事業目的、必要性等、事業の企画段階での考慮

→平成 27 年度の取り組み

- 申込が殺到していた事業については、事業目的を考え、対象となる年齢要件を引き上げる等、事業企画を見直しました。

2) 参加費（参加者負担）の考え方について

- ・食事代、おみやげ等、本人のための費用は本人負担
- ・お食事、お菓子、お茶が事業の目的となる場合への考慮

→平成27年度の取り組み

- 食事代やおみやげ代等の参加者本人のための費用については、各参加者において負担することといたしました。（柿狩り散策事業）しかしながら、食事やお菓子、お茶等そのものが事業のメインとなることについては、社協で負担してまいりました。（元気シニア・敬老会等）

3) 地域福祉推進のための基金の考え方と実際の運用について

- ・片瀬地区社協の新規事業への活用
- ・地域諸団体の福祉活動への助成

→平成27年度の取り組み

- 今年度新たにスタートした事業もあり、今年度当初においては、それぞれの経費について未確定な部分もありました。そのため、地域諸団体の福祉活動への助成や特別事業活動基金の利用に関する明確化については、今年度実施いたしませんでした。

<あり方4. 地区社協と行政・市社協との関係について>

地域のボランティアへの期待が語られる機会が多くなっていますが、地域の任意団体である地区社協の役割にもおのずと限界があります。私たち片瀬地区社協の役割について、介護保険の改正も見守りながら、市、市社会福祉協議会と協議、検討を深めていきます。

→平成27年度の取り組み

- 今年度については、介護保険制度の改正等について、行政の方向性が不明確な部分がありましたが、今後は市や市社協との役割分担について、意見交換や調整を実施していけたらと考えております。

<総括>

全体を通して、課題別の部会組織とすることで、各部会分野別の地域課題の把握・検討、や事業の企画・実施等がより具体的かつ効果的に取り組めたものと考えております。それに伴い、理事会の場では、各部会長及び副部長等で組織し、理事会が地区全体の課題を認識することができるよう、理事会運営を見直すことができました。

行政における福祉施策についても今後様々な変革が見込まれることから、市、市社会福祉協議会と協議・検討を進め、片瀬地区社協の役割について今後も探求していけたらと考えております。

以上